

私のすがた

日豊教区 櫻木 証

私とあなた、自分と自分以外の人。人はそれぞれ「自」と「他」を区別して生きています。では「私」のこと、「私の本当のすがた」に、私自身は気づくことができるのでしょうか。

今から2500年ほど前、お釈迦さまのお弟子に目連という方がいました。

彼にはどんなことでも可能にする不思議な力「神通力」が備わっていましたが、その力を使つても、餓鬼道という地獄で苦しんでいたお母さんを助け出すことができませんでした。



子どもたちと聞く法話

したけれど助けられなかつた」と。なぜお母さんは餓鬼道に落ちねばならなかつたのか、どうすれば助けられるかをお釈迦さまに尋ねたこと。お釈迦さまからは、お母さんは息子には優しかつたけれど他の人には冷たく、その報いによつて餓鬼道に落ちているから、助けたいのならばたくさんの人々にごちそうを振る舞うようにと教えていただいたこと。それでこうして皆さんにごちそうを出したのだと…。

その時、彼はハッとしました。目連さんは、お釈迦さまが教えてくださったことの本当の意味によく気がついたのです。「今、私のお母さんは私だけをかわいがつた報いを受けて餓鬼道に落ちたと言いましたが、私も同じことをしていました。餓鬼

道にはたくさんの人が苦しんでいるのに、私はその苦しんでいる人たちには何もしませんでした。いや、むしろ見向きもせず、自分の母親だけを助けようとして、母親だけに食べ物を持って行つたのです。母は「ぐるり、今、餓鬼道にいますが、生きている私も餓鬼道にいる母と同じです。助け出したいならば、お盆の時季にたくさんの人を呼んで、おいしい食事とおいしい飲み物を出すのです」と教えてくださいました。

そこで目連さんはこれまでのことを話し始めました。亡くなつたお母さんが餓鬼道に落ち、助けようと

したけれど助けられなかつた」と。なぜお母さんは餓鬼道に落ちねばならなかつたのか、どうすれば助けられるかをお釈迦さまに尋ねたこと。お釈迦さまからは、お母さんは息子には優しかつたけれど他の人には冷たく、その報いによつて餓鬼道に落ちているから、助けたいのならばたくさんの人々にごちそうを振る舞うようにと教えていただいたこと。それでこうして皆さんにごちそうを出したのだと…。

そのことに気づかずに、今まで何事もなかつたかのように暮らしてきました。あなたの話を聞かなければ氣づかないままでした」と礼を述べたのでした。

見えていなかつた自分に気づいていくということは、簡単なことではないでしょう。しかし仏さまは、気づかない今までいる私たちに常に「気づいてほしい、田を覚ましてほしい」と呼びかけられています。その呼びかけが「南無阿弥陀仏」というお念佛です。



蓮ちゃん通信 その②

子ども会開設の手引き 「ひとりからはじめる子ども会」(改訂版)

「私ひとりからはじめること」、「子どもひとりと出あうこと」をコンセプトに、子ども会の準備から実践までを紹介している手引書です。あなたもこの手引きをきっかけに、まずは気負わず子ども会を開いてみませんか?

*無償で送付いたします。
青少幼年センターまでお問合せください。

